

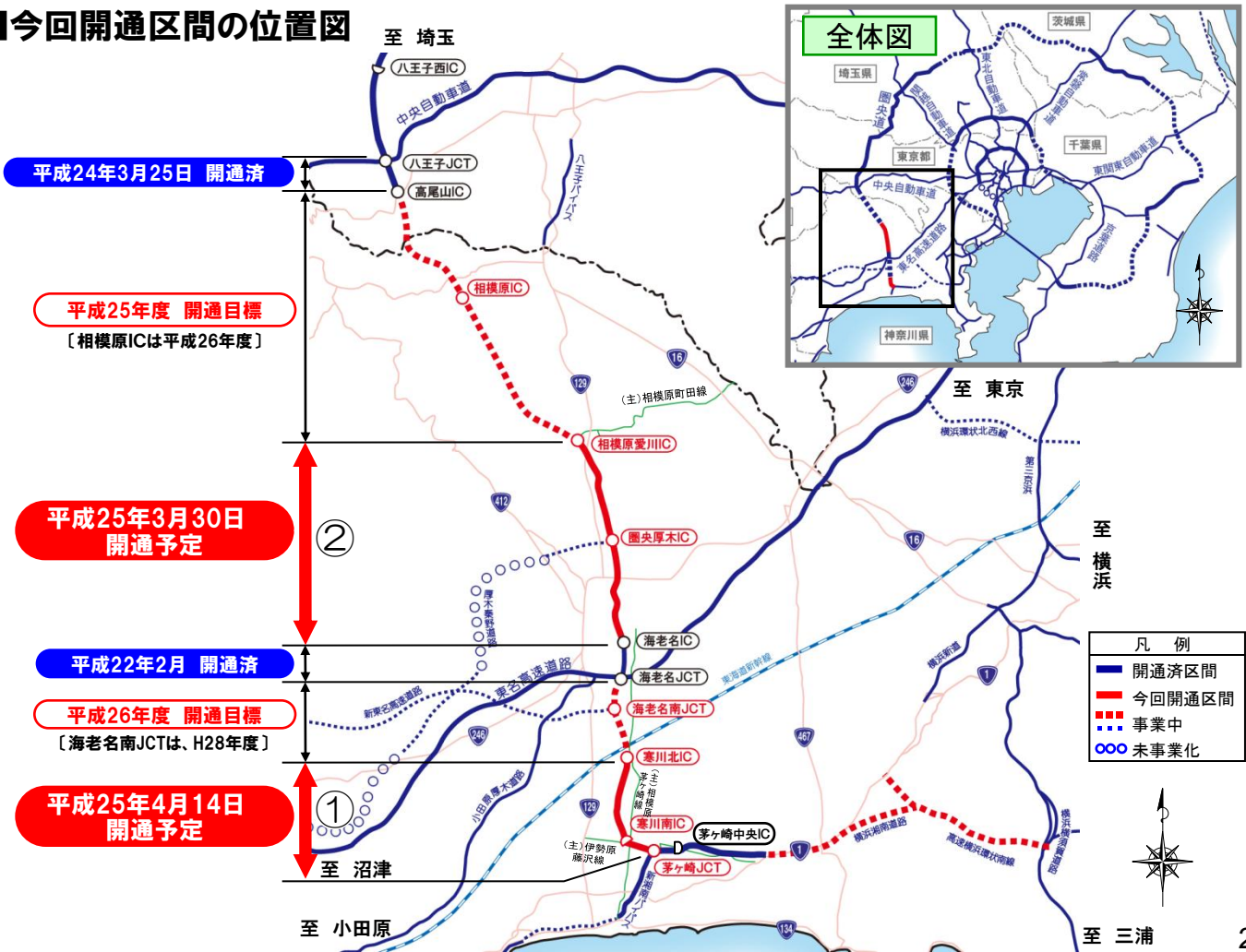
圏央道開通区間概要

- 首都圏中央連絡自動車道（圏央道）は、首都圏の道路交通の円滑化、沿線都市間の連絡強化等を目的とした都心から半径およそ40～60kmの位置に計画されている総延長約300kmの環状の自動車専用道路です。現在までに約110kmが開通しています。
- 今回開通区間の概要

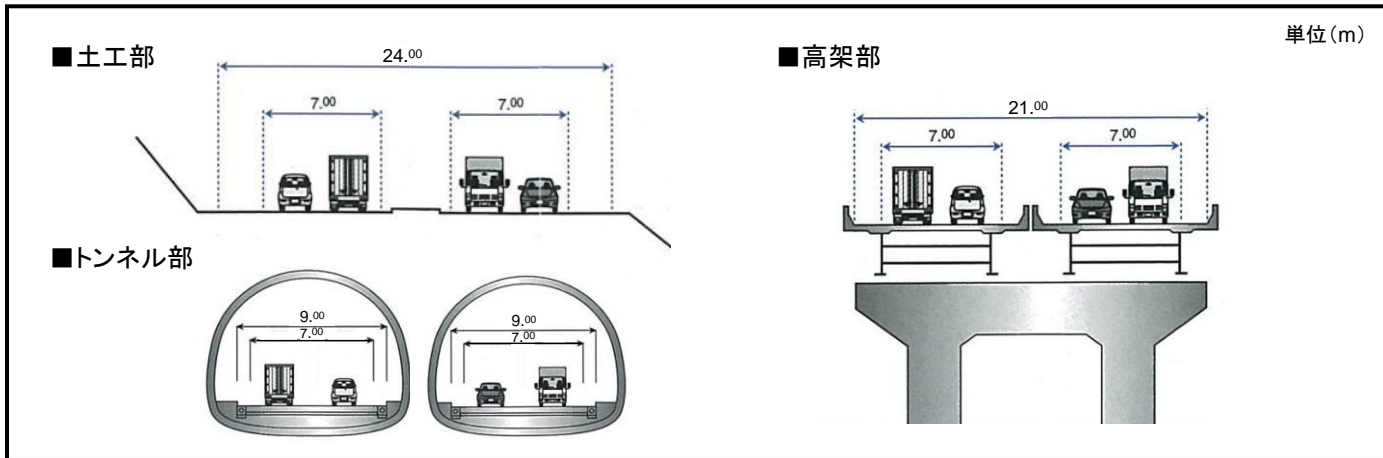
路線名	：国道468号 首都圏中央連絡自動車道（圏央道）	
①開通区間	：茅ヶ崎JCT（茅ヶ崎市西久保） にしほ	～寒川北IC（高座郡寒川町宮山） こうざぐんさむかわかまみややま
開通日時	：平成25年4月14日（日）15時	
延長	：5.1 km	
車線数	：4車線	
開通IC・JCT	：茅ヶ崎JCT、寒川南IC※、寒川北IC	
アクセス道路	：新湘南パイクス、(主)伊勢原藤沢線、(主)相模原茅ヶ崎線 なかしんでん	
②開通区間	：海老名IC（海老名市中新田） なみなみくたいま	～相模原愛川IC（相模原市南区当麻）
開通日時	：平成25年3月30日（土）15時	
延長	：10.1 km	
車線数	：4車線	
開通IC	：圏央厚木IC、相模原愛川IC	
アクセス道路	：国道129号、(主)相模原町田線	

※ 寒川南ICはハーフICのため、寒川北IC方面への乗り入れ、寒川北IC方面からの降車のみのご利用となります。

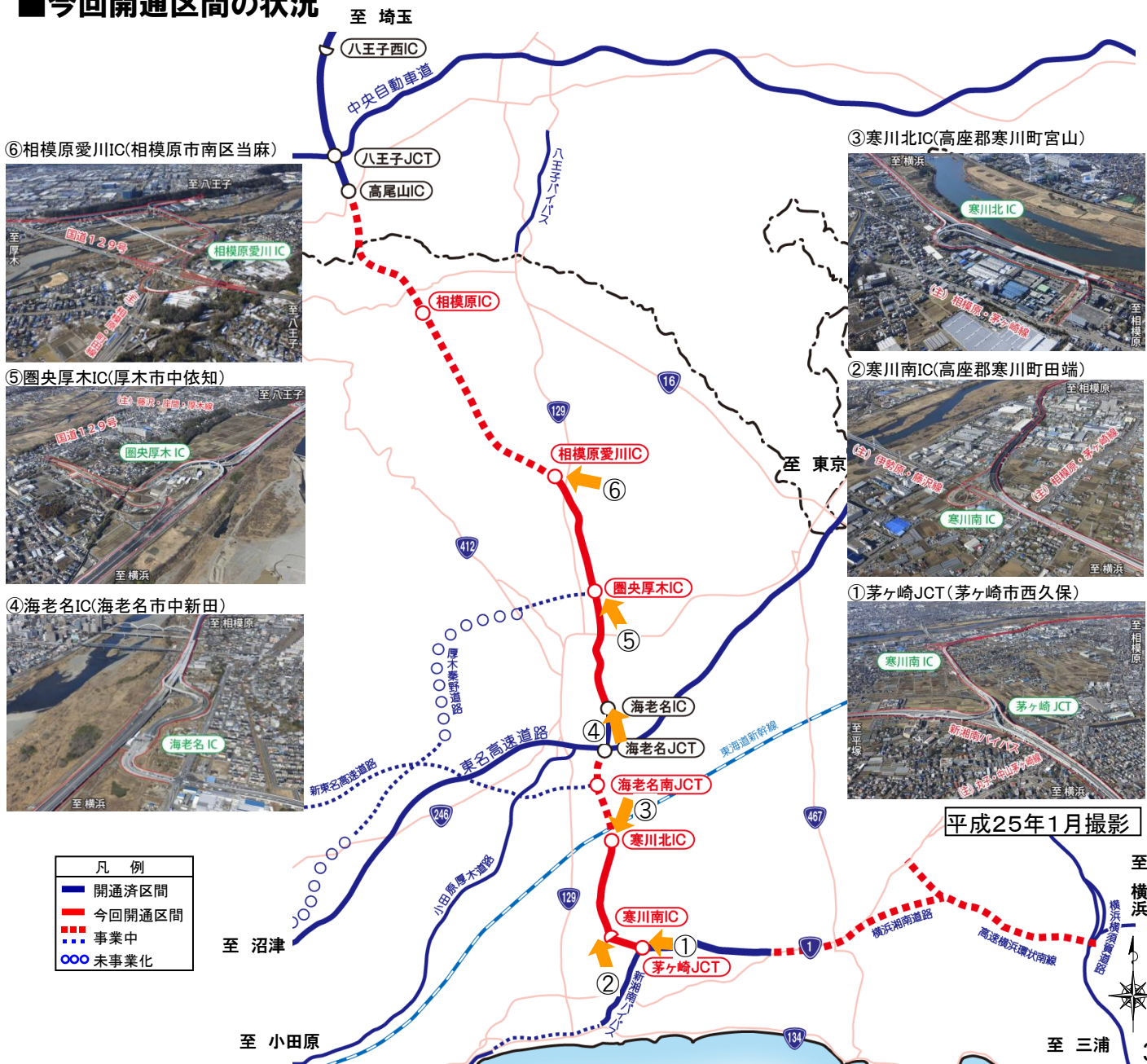
今回開通区間の位置図



■今回開通区間の標準断面図



■今回開通区間の状況



凡例	
	開通済区間
	今回開通区間
	事業中
	未事業化

- 圏央道の整備により、東名高速道路や中央自動車道などの放射方向の高速道路を結ぶ道路ネットワークが形成され、都心部への通過交通の抑制が期待されます。
- 都心部への通過交通の抑制により、圏央道に並行する国道16号・国道129号などの周辺道路の混雑緩和が期待されるとともに、各高速道路間の移動短縮などが期待されています。

圏央道の整備に伴う都心部への通過交通の流入の抑制

圏央道整備後
(通過交通の都心部流入を抑制)



圏央道沿線の立地企業や観光関係者からの声

■ 圏央道沿線の立地企業(海老名市内)からの声

これまで時間の読めない一般道を利用していた配送が、今後、開通区間が伸びて、中央道とながり、圏央道を利用することで中央道などの高速道路への移動時間短縮を期待しています。



■ 観光関係者からの声

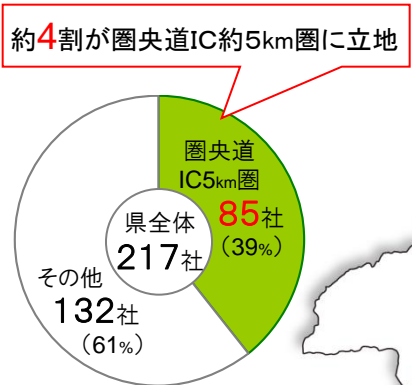
- ・ 県外からの観光客が圏央道を通ってスムーズに県内の観光地に訪れることができるようになることで観光客数の増加を期待しています。
- ・ 圏央道ができることによって、時間が読めるようになり、八王子方面から箱根方面や鎌倉・横須賀方面へ行きやすくなると思います。



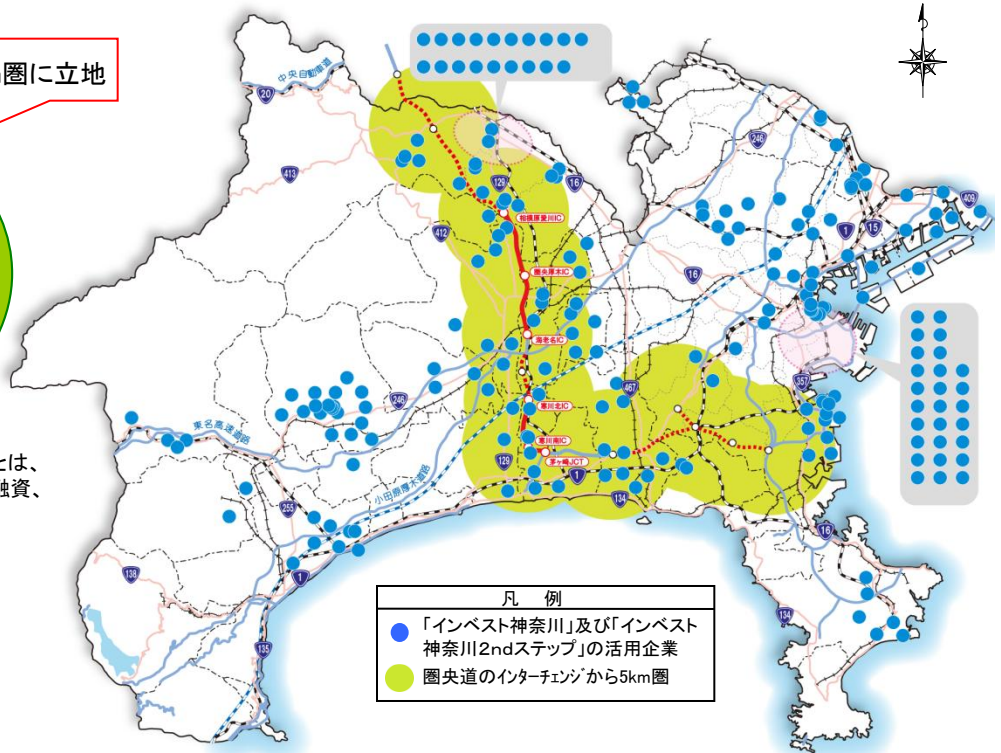
- 神奈川県では神奈川県産業集積促進方策(インベスト神奈川)により、企業立地を支援しており、同方策の活用企業の約4割が圏央道のインターチェンジから5km圏に立地しています。
- 圏央道の整備により、地域の活性化や神奈川県の競争力のある産業の創出・育成の支援が期待されます。

神奈川県産業集積促進方策(インベスト神奈川)を活用した企業と圏央道沿線における企業立地の支援

■「インベスト神奈川」および「インベスト神奈川2ndステップ」を活用した企業（平成24年9月13日時点）



※神奈川県の「インベスト神奈川」とは、企業立地を積極的に支援(低利融資、減税措置等)する制度

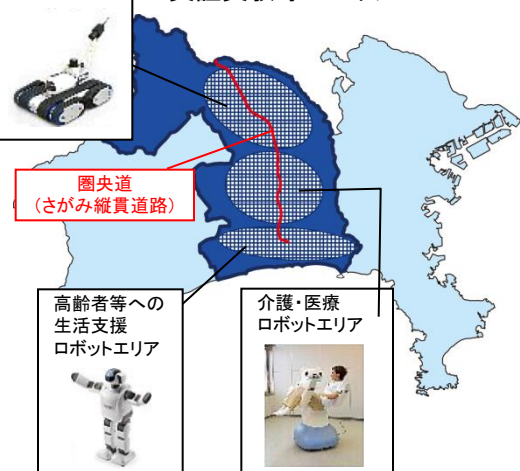


資料：神奈川県商工労働局 産業部 産業立地課の「インベスト神奈川」による企業立地位置図及び「インベスト神奈川2ndステップ」による立地企業一覧より作成（平成24年9月13日時点）

圏央道沿線に立地するさがみロボット産業特区(仮称)

災害対応
ロボットエリア

実証実験等のエリア



○概要

- ・神奈川県は、圏央道の全面開通を控え、さがみ縦貫道路沿線自治体にロボット関連産業を集め、新たな産業集積地域を目指し、地域活性化総合特区「さがみロボット産業特区(仮称)」を内閣府に申請(H24.9)
- ・対象地域は、相模原、平塚など9市2町。

○取組みの内容

- ・薬事法や電波法等の規制を緩和し、通常は実施できない実証実験をリハビリ施設、福祉施設等で実施
- ・土地利用規制等を緩和し、ロボットメーカーをはじめ幅広い分野の企業を誘致

○数値目標

- ・「実証実験等の実施件数」
平成23年度:4件 → 平成25年度から5年間で60件 など

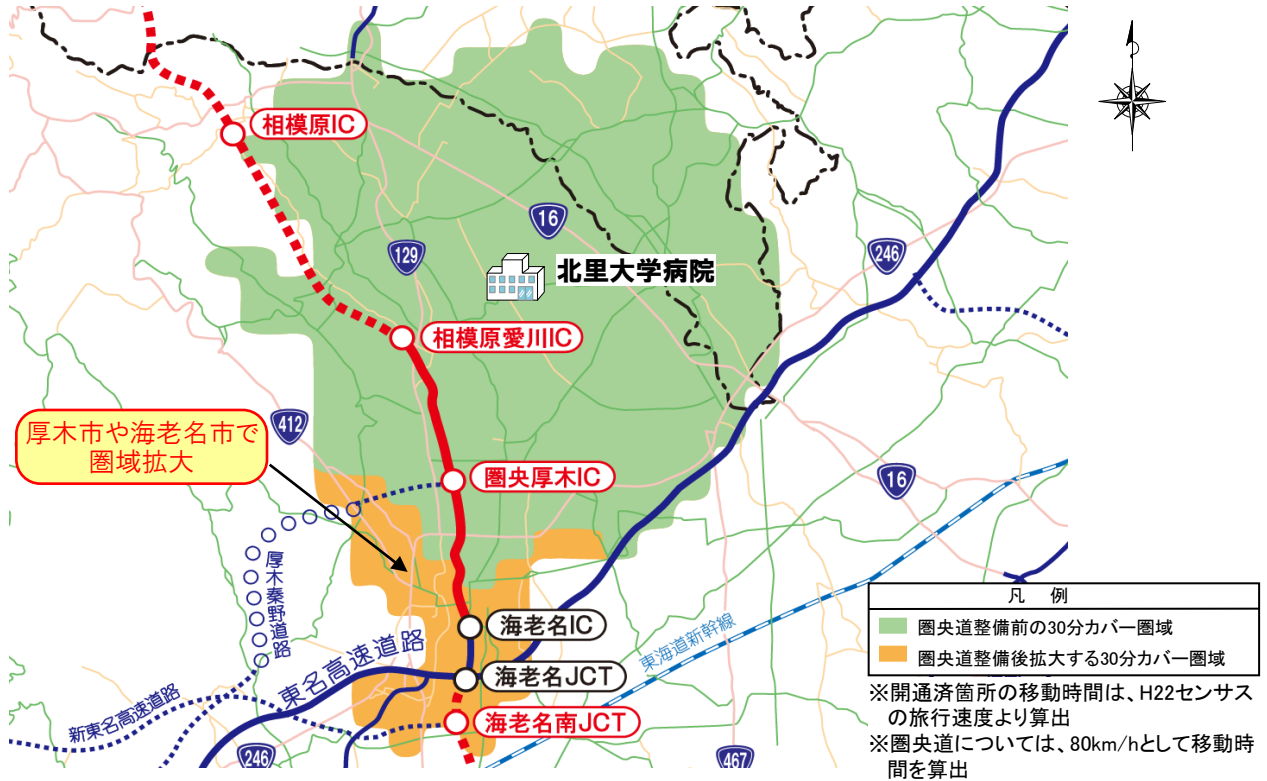
資料：地域活性化総合特別区域指定申請書(平成24年9月28日)

- 圏央道（海老名IC～相模原愛川IC間）が開通することにより、30分で搬送できる第三次救急医療施設の選択肢が広がります。
- 例えば、北里大学病院（救命救急センター※）においては、30分で搬送できる範囲が厚木市や海老名市で拡大し、30分カバー圏域人口が拡大します。

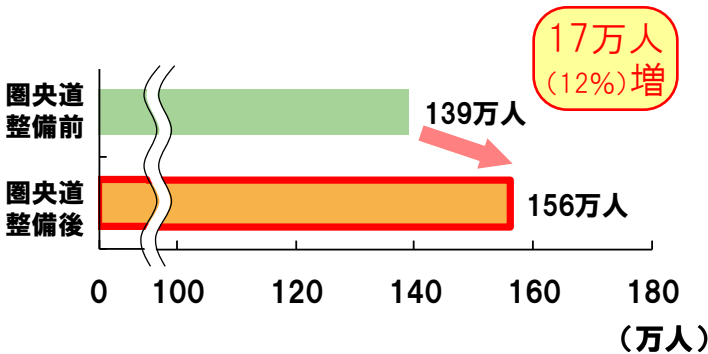
※救命救急センター：より高度で特殊・専門医療が必要な重篤・重症救急患者を24時間体制で受け入れる三次救急医療施設

北里大学病院からの30分カバー圏域の拡大

北里大学病院からの30分カバー圏域



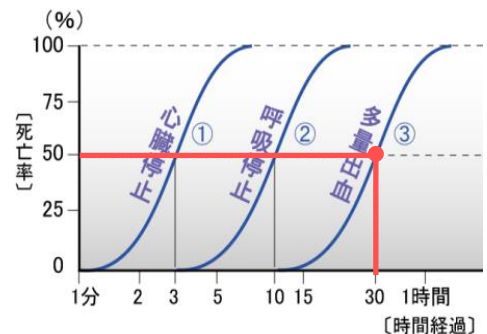
北里大学病院からの30分カバー圏域人口



※30分圏域の人口はH22国勢調査を集計

緊急搬送の経過時間と死亡率の関係

・多量出血の場合、30分以内の搬送であれば50%の命が助かる可能性がある



出典：カーラーの救命曲線

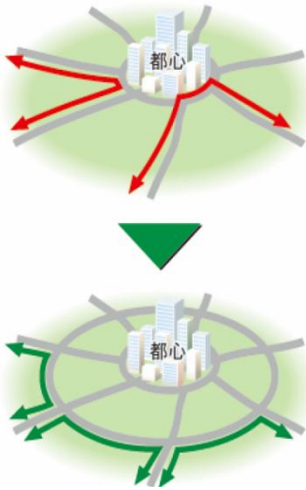
参考① 環状道路の役割

●大都市圏の環状道路は、都心へ集中する幹線道路の交通のうち都心を通り抜ける車をバイパスさせ、都心の交通混雑を緩和する役割や郊外から都心部への交通を分散導入する役割など、集積が著しい都市の成長に不可欠な交通機能を提供します。

環状道路の役割

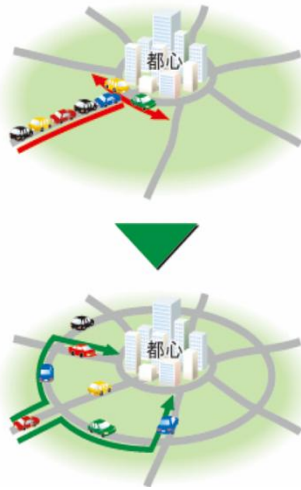
通過交通の抑制

通過交通の都心部流入を抑制する



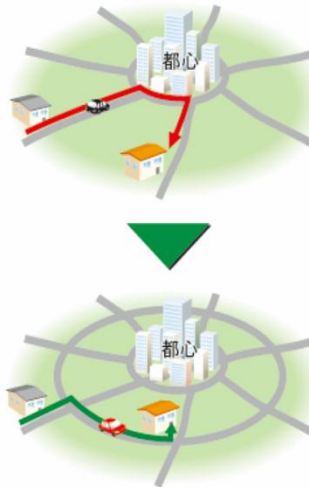
分散導入効果

郊外から都心部への交通を分散誘導する



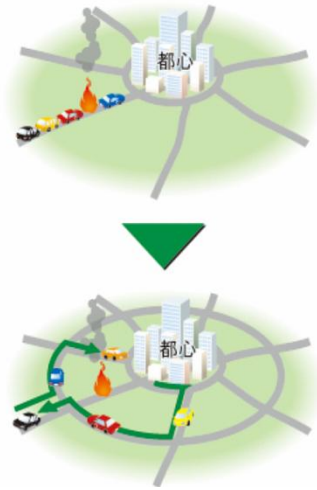
地域間移動

周辺地域間の移動が直接できる



非常時の迂回機能

災害や事故などで一部区間の不通があっても速やかに迂回できる



3環状9放射ネットワーク構想



参考② 今回開通区間の料金表等

■寒川北インター から主要インターまでの料金表 ※通常料金

		料金 (単位:円)				
	IC名	軽自動車等	普通車	中型車	大型車	特大車
圏央道	寒川南	100	150	150	200	400
	茅ヶ崎JCT	150	250	250	350	600

※ 寒川南ICはハーフICのため、寒川北IC方面への乗り入れ、寒川北IC方面からの降車のみのご利用となります。

■相模原愛川インター から主要インターまでの料金表 ※通常料金

		料金 (単位:円)				
	IC名	軽自動車等	普通車	中型車	大型車	特大車
圏央道	圏央厚木	200	250	250	400	600
	海老名	350	450	500	700	1,150
東名	東京	1,400	1,700	2,000	2,700	4,350
	東名川崎	1,200	1,500	1,700	2,300	3,700
	横浜町田	900	1,100	1,250	1,700	2,700
	厚木	600	700	750	1,000	1,550
	静岡	3,050	3,800	4,450	6,100	10,050
	浜松	4,100	5,100	6,050	8,250	13,650
新東名	新富士	2,400	2,950	3,450	4,700	7,750
	新静岡	2,950	3,650	4,300	5,850	9,650
	浜松浜北	3,900	4,850	5,750	7,850	13,000
東名	名古屋	5,350	6,650	7,900	10,850	17,900

■E T C割引の適用について

今回開通する「茅ヶ崎JCT～寒川北IC」及び「海老名IC～相模原愛川IC」間は、既に開通している他の圏央道の区間と同様に大都市近郊区間となりますので、以下の時間帯割引が適用されます。

割引名称	主な内容
深夜割引	0時～4時までの間に対象となる道路を走行。最大50%割引。
早朝夜間割引	大都市近郊区間を少なくとも1区間走行し、かつ、1回の走行距離が100km以内となる区間。入口又は出口の料金所を22時～翌6時までの間に通過。最大50%割引。
平日夜間割引	祝日を除く月～金曜日の4時～6時までの間又は20時～24時までの間に入口又は出口の料金所を通過。最大30%割引。
休日特別割引	軽自動車等または普通車のみ対象。 土日祝日の6時～22時のご利用の場合：最大30%割引。 土日祝日の0時～6時・22時～24時を含むご利用の場合：最大50%割引。

※ 各時間帯割引の適用条件等の詳細については、中日本高速道路㈱ホームページをご確認ください。

<圏央道連続利用割引>

【割引条件】 ①E T Cが整備されている入口インターチェンジをE T C無線通行により走行

②次のインターチェンジを利用する場合

【対象区間】 圏央道（圏央厚木IC～相模原愛川IC）の各IC⇄東名（東京IC～厚木IC）の各IC

【割引額】 高速道路料金を全車種150円割引 ※時間帯割引きと重複適用されません。